



# 読売歌壇

小池 光選

高校の野球部員が乗り来たる大きな背中寄せ合  
いながら  
横浜市 芳垣 光勇

【評】野球部の高校生、体格がすごい。いか  
にも背中が大きい。どつと電車に乗ってくる  
と圧倒される。真っ黒に日焼けし、しかしま  
だあどけないその顔。がんばれ、甲子園まで。  
十代の頃に恋した先生の名を見つけたら、おく  
み欄に  
栃木市 近藤 靖子

【評】地方紙にはおくやみ欄というものがあ  
って、地域で亡くなった人を知らせる。十代  
だったあの頃、ひそかに恋心を抱いた先生が  
いた。その名を今日の紙面に見る。感無量。  
亡き人のよからぬ話さへきって「死ねば仏よ」  
母の名言  
大網白里市 土屋 君江

【評】死んだ人の悪口がつい口を出ることが  
ある。それを聞いて母がたしなめる。死んで  
しまえばみな仏になるのだ。まさしく名言。  
大きな日川染め川に沈みゆく橋から見詰む兄と  
妹  
富士見市 阿部 泰夫

吹く風のままに靡いて秋桜 大人になれとわた  
しを叱る  
浜松市 久野 茂樹  
アセチレンの匂ひたなく夜店にて金魚すくひ  
し速き思ひ出  
匠瑠市 椎名 昭雄  
秋風の淡く吹きたる夕暮の古戦場には子供らの  
声  
北名古屋市 月城 龍二

毎週の読売歌壇楽しみの夫一言皆うまいなあ  
孫問へり「ファーストキスおじいちゃん？」  
まごつく吾に「理想的だね」横浜市 竹原 苑子  
この施設に夫はいたんだこの病院にも夫は来た  
んだ夫を恋ふてる  
さいたま市 大塚 数子

栗木 京子選

爆心地へ看護婦の伯母等急ぎけりよく効く火傷  
の軟膏持ちて  
佐世保市 岳本とも子

【評】一九四五年八月に原子爆弾が投下され  
た折の記憶。「爆心地」に衝撃を受ける。被  
害の激しさや放射能の影響など知らぬまま、  
火傷の薬を持って急いだことが胸に迫る。  
トビウオが海から空へ逆タイプ見え隠れする僕  
の本心  
茨城県 黒沢 貞和

【評】海から空へと飛ぶトビウオ。その動き  
を「逆タイプ」と捉えたところが新鮮。空の  
中へと潜り込んでゆくような姿は、本心を露  
出するようでもあり、隠すようでもある。  
首にのる頭にあらためて重さあり耐えて酷暑も  
八月の尽  
京丹後市 鉄林 篤

【評】酷暑がやわらぐことなく八月は過ぎて  
ゆく。頭がくらくらするよう不快感を上句  
が端的に表しており、共感を覚えた。  
侵攻し略奪続けるその口が和平を語る気持ちの  
悪さ  
市川市 磯村 祥子

値上げして貼り足さなければ届かないハガキの  
様な今の与党は  
大東市 若槻 豊彦  
エアコンの部屋で一日読書する五センチ伸びる  
ジャスミンの蔓  
草加市 入江 幸子  
格好良くポロシャツ着るのは無理だけど揃いの  
青でOBスタツフ  
大津市 山下びわこ

晩年の母と兄嫁頼りて微笑む写真に歳月の見  
ゆ  
日立市 高山 豊子  
二種類の目薬さす時インターバル五分待つのは  
意外と長い  
東京都 芦田多江子  
飛び出でてソファアの陰に入りしままだ見つ  
からぬ今朝の錠剤  
さいたま市 泉 明

俵 万智選

かまほこの賞味期限があの人誕生日とかまた  
思っんだ  
伊勢市 藤田ゆきまち

【評】機械的に印字された賞味期限。それが  
見覚えのある日付だった。結句から伝わる、  
自分自身に呆れる感じが、せつない。未練は、  
理性では割り切れないものなのだ。  
鯨から生まれるようにビルを出て季節の継ぎ目  
にちよつとつまずく  
東京都 無地ムジカ

【評】大きなビルの比喻として使われた鯨が、  
都会という大海を想像させて効果的だ。守ら  
れていたビル(という胎内)よりも、自然界  
はやや荒れ模様のようである。  
三日月をぎつちり詰めて満月に焼き上げていく  
鉄鍋餃子  
高島市 くらたか湖春

【評】餃子を焼く様子が、三日月と満月とい  
うつながりのある比喩で、楽しむ的確に伝わ  
ってくる。「に」が時間の経過を担って巧い。  
無を測ることすら出来る世に生まれ無呼吸検査  
装置をつける  
船橋市 藤本 典裕

十年ほど祖父のプログを遡り健脚なりし視界に  
出逢う  
大和郡山市 大津 穂波  
あたたかい春だといね押し花のように「入園  
のしおり」をしまう  
広島市 木村 佳慧

「うつつとこせ」と子は立ち上がるネットにも事  
典にもない言葉信じて 大和郡山市 本田 岳  
生きてゆくあなたがいけない日じゃなくてあなた  
と生きた日々の続きを 伊勢原市 綾川あすか  
財布には古顔新顔混ざりゆき夜更けのスナック  
のような安らぎ 和歌山県 助野貴美子  
つかめない砂金の川をただそばで見守ってゆく  
ような子育て 朝霞市 桐島 あお

黒瀬 珂瀾選

友遊きて誰に語らんカーナビのような友との旅  
さんまいを  
いすみ市 安藤 敦子

【評】運転は私、案内はあなた。そんな名コ  
ンビだった親友を亡くして、私は一体誰と旅  
の思い出を語ればよいのか。しゃべり上手だ  
ったろう友人を亡くしての、深い喪失感。  
ファミレスは不夜城となり履歴書の志望動機が  
まだ埋まらない  
市原市 十条 坂

【評】単なる個人情報ならすぐ書けるが、志  
望動機は志望先にあわせて建前を巧く記さね  
ばならない。悩み、唸りつつ書いても、全然  
紙面は埋まらない。就職活動お疲れ様です。  
だれにでも地球最後の日はあつてしらすどんぶ  
りかっこんでいる  
横浜市 紺屋小町

【評】確かに誰にも地球で暮らす最後の日が  
ある。すなわち、死ぬその日だ。でも今は、  
そんなことは考えず……しらす丼おいしい。  
真夏日はもう勘弁と叫んでるラジオが流すビー  
チボーイズ  
札幌市 橘 晃弘

積雲を背景にして子どもとは夏を味方につける  
生きもの  
東村山市 すぎちひな  
足が痛いと言つた夫の盆踊り今年はどうにか踊  
り切りたり  
西条市 山本美知子

地図に無き町に買いきし青林檎食めは独りの夏  
が過ぎゆく  
垂水市 岩元 秀人  
指示されて広瀬中佐に墨を塗る筆戸感ひぬ小四  
われは  
高崎市 熊沢 峻  
置き物になりきる蛙とマネキンになりきる私が  
見つめあつて  
生駒市 高橋 裕樹  
新しき職場は家に近けれど君とは離る通勤経路  
立川市 安藤 麗